

鶴見英成氏の学位論文「ペルー北部、ヘケテペケ川中流域における先史アンデス文明形成期の社会過程」は、同氏の長年にわたる現地調査に裏打ちされたアンデス考古学への大きな貢献であると評価することができる労作である。

論文は、第1部：序説、第2部：データ、第3部：論考の三部構成からなる。第一部第1章「はじめに」では、本論文の目的と背景が述べられている。論文の目的は、第一に、南アメリカ大陸ペルー北部ヘケテペケ川中流域、アマカス平原と呼ばれる地域に密集する神殿建築群「アマカス複合」における考古学調査を通じて得られた、多様なデータおよびその分析結果を提示すること、第二に、アマカス複合における社会過程を、データに立脚した堅実な論考として提示すること、第三に、上記の社会過程を地方的・限定的な一事例としてではなく、アンデス全域につながるものとして解明すること、の三点であると述べられている。第2章「ペルー北部・ヘケテペケ谷の形成期研究」では、これまでのペルー形成期研究が概観され、調査地の概況説明を加えて、現地調査に至る背景が詳述されている。

第2部：データは、上に述べた第一の目的に沿った詳細なデータ提示を目的とした部分である。第3章から第5章は、鶴見氏の中心的な発掘対象であるラス・ワカスの発掘調査の報告である。まず第3章においては、神殿建築および居住用建築を、発掘によって解明された建築フェイズの進展プロセスに沿って概観する。第4章では、出土土器を27のタイプに分類し、編年上の位置を示す。第5章は、土器以外の各種遺物の概要および他地域における類例を記載した章である。第6章においては、ラス・ワカス遺跡のデータにレチューサス遺跡のデータを加えて、農産物、海産物、畜産物に関する分析結果を提示する。第7章から第9章は、ラス・ワカス遺跡から次第に範囲を広げ、ヘケテペケ谷中流域全体へと論考を拡大させている。すなわち、第7章では、ラス・ワカスを含むアマカス複合神殿群全体に関する情報の整理が、第8章ではより東方の3地点における発掘調査の成果が、第9章ではヘケテペケ谷全域踏査によって新規登録された遺跡の情報の提示が、それぞれ行われている。

第2部において提示されたデータは、出土遺物の分析も的確であり、将来の研究において引用されるに足る質を備えていると評価される。考古学の発掘調査に基づく研究において非常に重要な一次データの提示という点で、本論文は

非常に高いレベルを示している。

第3部：論考は、前述の第二、第三の目的すなわち「アマカス社会の社会過程の解明」と「アンデス文明地域全体への定位」にあてられた部分である。第10章においては、アマカス地方における神殿の更新が、他地域のような一カ所における神殿の拡大ではなく、西から東へと移動しながら拡張する形をとったこと、また旧神殿を放棄する際に塔状墳墓を建設して祖先や神殿を新神殿から見えるものとしたこと、しかるに東方のラス・ワカス神殿に至って移動は休止して同地点における拡張開始され、神官と一般住民の居住地が分離されて階層分化が成立し、複数の神殿が同時に機能するようになったと分析されている。第11章では、アマカス複合の編年を、絶対年代測定および土器編年の比較対照により、ヘケテペケ川流域全体の中に位置づける。また、中流域における遺跡分布の通時的変化から、アマカス複合が流域においていかなる位置にあったかを分析している。さらに、広い範囲における空間的・時間的位置づけのために、他の河谷における層位的発掘の成果と、そこで提示された土器編年との比較対照を行った。そして、精緻な地域間比較によって、土器制作が始まったアンデス文明形成期についての、新たな研究の展望が開けることを予想・期待して全編が締めくくられている。

先に述べたように、本論文の第一の目的である信頼に足る詳細のデータの提示は十分に果たされている。本論文が将来さまざまな研究において言及・引用されるものとなることは疑いない。また、第二、第三の目的に関しても、対象を一遺跡に限定せず、ひとつのまとまりを持った地域全体を対象にしていることに対して、審査員から共通して賛意が示された。この研究が、歴史プロセスの再現を企図しており、考古学データに基づきながら人類学にも影響のある視点を提供していることを高く評価する審査員もあった。

本論文にも瑕疵なしとしない。データの提示法・解釈に関して審査員と意見と異にする場面もあり、論文の結論部分の締めくくりが唐突にすぎ、論文の全体の総括が不足しているとの指摘もあった。また、自らの一次データから構築された仮説はあるものの、他のモデルの理論的レビューが不足しているという批判もあったことを付け加えておく。

しかしながら、これらの瑕疵は論文全体の価値を大きく損なうものではなく、論文は博士論文として十分な内容を備えている、したがって、本審査委員会は博士（学術）の学位を授与するにふさわしいものと認定する。